

一般国道54号 三刀屋拡幅

## 道路建設事業の再評価項目調書

事業名	一般国道54号 三刀屋拡幅		事業区分	一般国道	事業主体	国土交通省 中国地方整備局
起終点	自：島根県雲南市三刀屋町三刀屋 至：島根県雲南市木次町里方				延長	4.1 km
事業概要	一般国道54号は、広島県広島市を起点に広島県三次市を経由し、島根県松江市に至る総延長約180kmの主要幹線道路である。三刀屋拡幅は、島根県雲南市三刀屋町周辺の円滑な交通と交通安全の確保を図るとともに周辺の開発計画に寄与することを目的とした延長4.1kmの道路整備事業である。					
H5年度事業化	H4年度都市計画決定	H10年度用地着手	H11年度工事着手			
全体事業費	約144億円		事業進捗率 (R2年度末見込み)	79%	供用済延長	1.7 km
計画交通量	5,800~18,800台/日					
費用対効果 分析結果	B/C (事業全体) 1.01 (残事業) 2.5	(3便益)	総費用 (残事業)/事業全体 35 / 223 億円 事業費 : 25 / 205億円 維持管理費 : 9.8 / 18億円	総便益 (残事業)/事業全体 90 / 226 億円 走行時間短縮便益 : 87 / 218億円 走行費用減少便益 : 2.1 / 6.4億円 交通事故減少便益 : 0.22 / 1.5億円	基準年 令和2年	
感度分析の結果	(全体事業) 交通量 : B/C=0.9~1.1 (交通量±10%) (残事業) 交通量 : B/C=2.3~2.8 (交通量±10%) 事業費 : B/C=1.001~1.02 (事業費±10%) 事業費 : B/C=2.4~2.7 (事業費±10%) 事業期間 : B/C=0.97~1.1 (事業期間±20%) 事業期間 : B/C=2.5~2.6 (事業期間±20%)					
事業の効果等	① 円滑なモビリティの確保 ・ 渋滞損失時間の削減が見込まれる【1620千人時間/年→1100千人時間/年 32%削減】 ・ 利便性の向上が期待できるバス路線が存在する <div style="text-align: right;">【雲南市民バス：吉田大東線・北原線等42便/日】</div> ・ 雲南市から出雲空港までの所要時間短縮が見込まれる <div style="text-align: right;">【雲南市（三刀屋総合センター）～出雲空港：19分→18分】</div> ② 都市の再生 ・ 雲南市の市街地再開発、区画整理等の沿道まちづくりとの連携あり <div style="text-align: right;">【第2次雲南市総合計画、雲南市都市計画マスタープラン、新市建設計画】</div> ・ 中心市街地内で行う事業 【中心市街地 R54沿線まちづくり基本計画、雲南市中心市街地活性化基本計画】                 ③ 国土・地域ネットワークの構築 ・ 日常活動圏の中心都市へのアクセス向上 <div style="text-align: right;">【雲南市（三刀屋総合センター）～松江市：34分→33分】 【雲南市（三刀屋総合センター）～出雲市：40分→39分】</div> ④ 安全で安心できるくらしの確保 ・ 三次医療施設へのアクセス向上 <div style="text-align: right;">【雲南市（三刀屋総合センター）～島根県立中央病院29分→28分】</div> ⑤ 災害への備え ・ 島根県の第1次緊急輸送道路に指定（一般国道54号）                 ⑥ 地球環境の保全 ・ CO2排出削減量が約1.7千t/年【88.0千t/年→86.3千t/年】                 ⑦ 生活環境の改善・保全 ・ NOX排出量が約5.1t/年（約3%）削減【181.9t/年→176.9t/年】 ・ SPM排出量が約0.3t/年（約3%）削減【9.9t/年→9.6t/年】                 ⑧ 他のプロジェクトとの関係 ・ 第2次雲南市総合計画（2015-2024）、雲南市都市計画マスタープラン（H26.2）等との連携プログラムに位置づけられている					

関係する地方公共団体等の意見

三刀屋拡幅は、円滑な交通と交通安全の確保、まちづくりの支援、地域経済の発展などが期待されており、雲南市長はもとより、商工会、工業団地振興会、J A、消防団、住民による協議会など様々な団体から早期整備の要望を受けている。

島根県知事の意見：対応方針（原案）については妥当である。

三刀屋拡幅は、円滑な交通と交通安全の確保、地域経済の発展などに寄与する事業である。県や市の関連する事業なども実施してきたところであり、雲南市三刀屋町三刀屋から市道要害1号線までの区間の円滑な交通と交通安全の確保を図るため整備を促進していただきたい。

事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等

三刀屋拡幅沿線部では、商業施設等も立地し、市街化が進展しており、人口も増加傾向である。段階的に4車線化しており、ボトルネックとなっていた里熊大橋の渋滞が解消した。

事業の進捗状況、残事業の内容等

令和2年度末で事業全体の進捗率は79%となる見込みである。  
現在までに三刀屋木次IC周辺から雲南市木次町里方までの1.7kmが4車線開通している。

事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等

投資効果の早期発現を図るため段階的に整備しており、今後（県）稗原木次線～（市）要害1号線の4車線開通を予定している。

施設の構造や工法の変更等

今後の事業の実施にあたっては、コスト縮減に努力しつつ事業を推進していく。

対応方針

事業継続

対応方針決定の理由

以上の状況を勘案すれば、事業の必要性、重要性は変わらないと考えられる。

事業概要図



※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価額を割引率を用いて基準年の価値に換算し累計したもの。  
※総費用及び総便益の値は、表示桁数の関係で内訳と一致しないことがある。

**「事業再評価」**  
**一般国道54号 みとや 三刀屋拡幅**

**令和2年 11月**

**国土交通省 中国地方整備局**

# 今後の対応方針（原案）

## 1. 再評価の視点

### ①事業の必要性の視点

#### 1) 事業を巡る社会情勢等の変化

- ◇平成28年3月に里熊大橋南詰から里方交差点まで(約0.5km)を4車線化、右折レーンを新設し、ボトルネックとなっていた里熊大橋の渋滞が解消。
- ◇雲南市が、平成28年11月に「雲南市中心市街地活性化基本計画」、平成30年1月に「中心市街地R54沿線まちづくり基本計画」を策定。
- ◇令和元年7月に雲南市中心市街地商業施設(地産地消レストラン等の複合施設)が開業。

#### 2) 事業の効果

- ◇費用便益比(B/C) = 1.01 (事業全体)    2.5 (残事業)
- ◇道路の役割
  - ①雲南市の魅力あるまちづくり(中心市街地形成や商業集積など)を支援  
[宅地化等による人口増加(対H11:約1.8倍)]、[中心市街地の新規出店数の増加:2.6倍(H23~H27:10→H28~R1:26)]
  - ②環境への影響を考慮した効果[約1.7千トンのCO2削減]  
三刀屋拡幅整備に伴う速度向上による地球環境(CO2)の改善効果を算定
  - ③沿道環境の改善[NOX排出量:約5.1トン/年(約2.8%)削減、SPM排出量:約0.3トン/年(約3.2%)削減]

#### 3) 事業の進捗状況

- ◇令和2年度末で事業全体の進捗率は79%となる見込みであり、現在までに三刀屋木次IC周辺から里方交差点までの約1.7kmが4車線化している。

### ②事業の進捗見込み

- ◇投資効果の早期発現を図るため段階的に整備しており、今後(県)稗原本次線 ~ (市)要害1号線の4車線開通を予定している。

### ③コスト縮減や代替案立案の可能性

- ◇今後の事業の実施にあたっては、コスト縮減に努力しつつ事業を推進していく。

## 2. 県への意見照会結果

島根県知事の意見:対応方針(原案)については妥当である。

三刀屋拡幅は、円滑な交通と交通安全の確保、地域経済の発展などに寄与する事業である。県や市の関連する事業なども実施してきたところであり、雲南市三刀屋町三刀屋から市道要害1号線までの区間の円滑な交通と交通安全の確保を図るため整備を促進していただきたい。

### 【今後の対応方針（原案）】



- ・上記①②の各視点により、以上の状況を勘案すれば、事業の必要性、重要性は変わらないと考えられるため、今後とも**事業継続が妥当**。
- ・今後の事業の実施にあたっては、コスト縮減に努力しつつ、効率的な事業実施に努める。

# 1. 再評価の重点化・効率化判定票（道路・街路事業）

一般国道54号 三刀屋拡幅 みとや

項目	判定			
	判断根拠	チェック欄		
事業を巡る社会経済情勢等の変化				
事業の効果や必要性、周辺環境等に変化がない	沿線市町村の人口 H28.4:40,295人 → R2.4:37,450人(雲南市) 沿線市町村の自動車保有台数 H26年度末:34,435台 → H30年度末: 33,620台(雲南市)	変化なし ■	変化あり □	
前回評価からの事業費・事業期間の増加		増加 無し	10%以内 増加	10%超え
事業費の増加	全体事業費:144億円(H27年度再評価時)→144億円(R2年度再評価時) ※増加無し	■	□	□
事業期間の増加	29年(H27年度再評価時) → 33年(R2年度再評価時) ※増加率13%	□	□	■
前回評価からの費用対効果分析に関する影響要因の変化等				
費用便益分析マニュアルに変更がない	H30.2.9_費用便益分析マニュアル改定	変化なし □	変更あり ■	
需要量の変化(需要量等の減少が10%以内)	132,300TE/日(H27年度再評価) → 135,900TE/日(R2年度再評価) ※増加率+3%	10%以下 ■	10%超え □	
周辺ネットワークで新規事業化がない		なし ■	あり □	
下記のうち、一方もしくは両方を満たしている ・事業費に比して費用対効果分析に要する費用が大きい ・前回評価時の感度分析における下位ケース値が基準 値を上回っている	直近3ヶ年の事業費の平均に対する分析費用 3.0% > 基準値(1.0%) 前回評価時の感度分析下位ケース 0.9 < 基準値(1.0)	満たしている ■	満たしてない □	
前回評価で資料の作成を省略していない		省略していない ■	省略している □	
前回評価で費用対効果分析を省略していない		省略していない ■	省略している □	
その他の事由(重点的な評価が必要な特別な事由)	特になし	—		

以上より、審議区分：**重点** 資料：**作成** 費用対効果分析：**実施** とする。

# 2. 事業概要

## (1) 位置図

- 一般国道54号は、広島県広島市を起点に広島県三次市を経由し、島根県松江市に至る総延長約160kmの主要幹線道路である。
- 三刀屋拡幅は、島根県雲南市三刀屋町三刀屋から雲南市木次町里方に至る延長4.1kmの道路整備事業である。



# 2. 事業概要

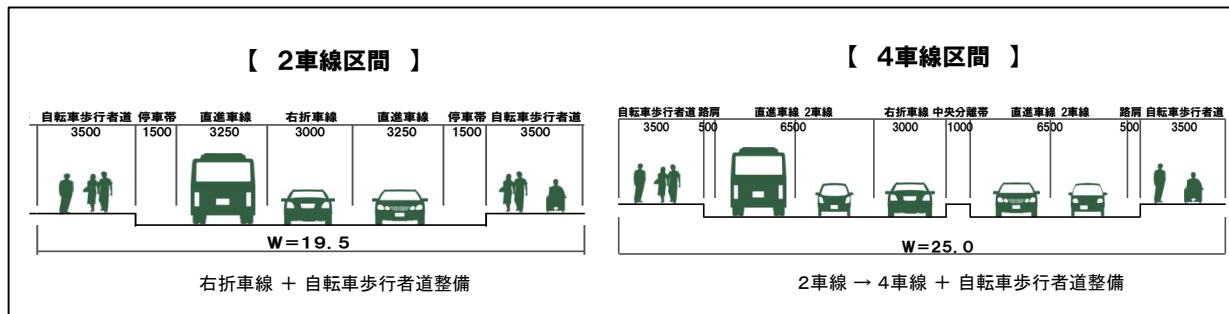
## (2) 事業目的と計画概要

●三刀屋拡幅は、島根県雲南市三刀屋町周辺の円滑な交通と交通安全の確保を図ることを目的とした事業である。

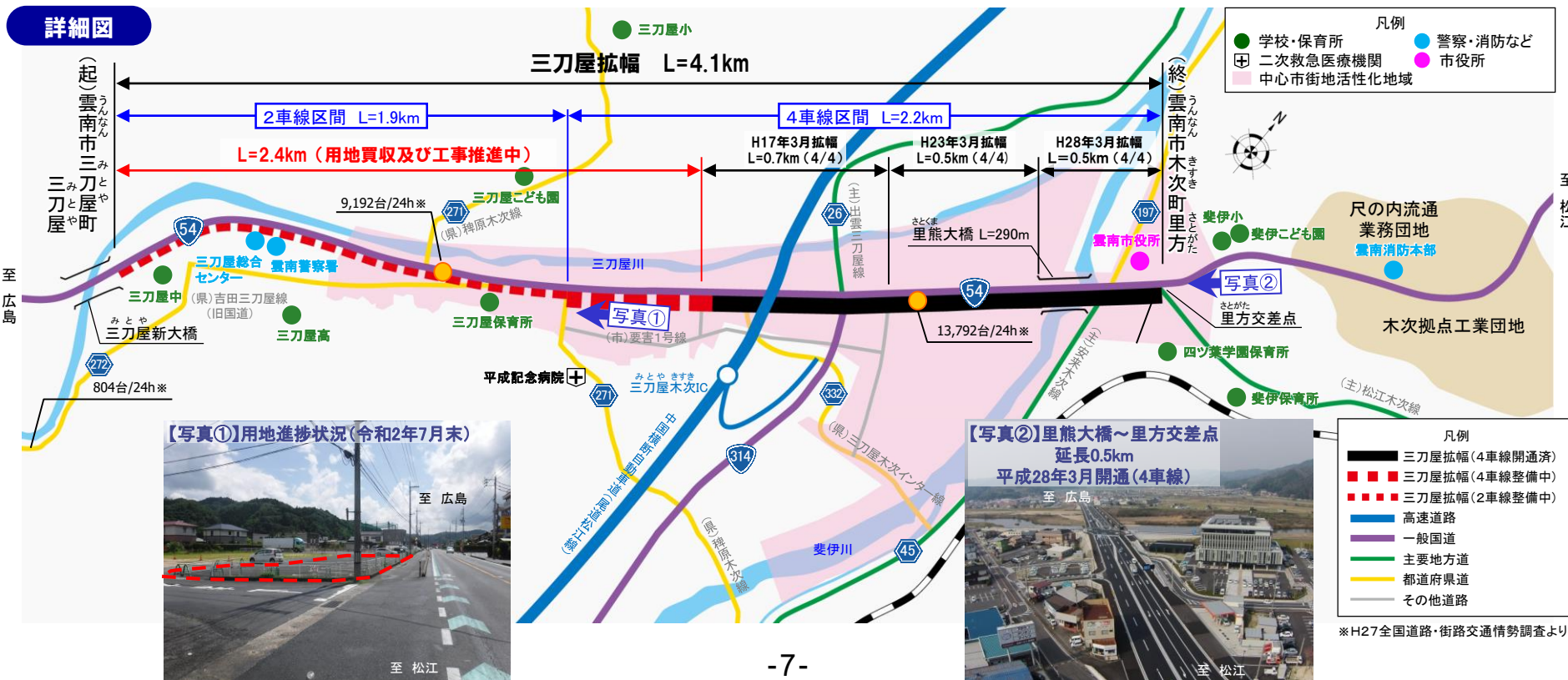
### 計画概要

起 終 点	起点：島根県雲南市三刀屋町三刀屋 終点：島根県雲南市木次町里方
計画延長	4.1 km
道路規格	第4種第1級
車 線 数	2車線, 4車線
設計速度	60 km/h

### 標準断面図



### 詳細図





# 2. 事業概要

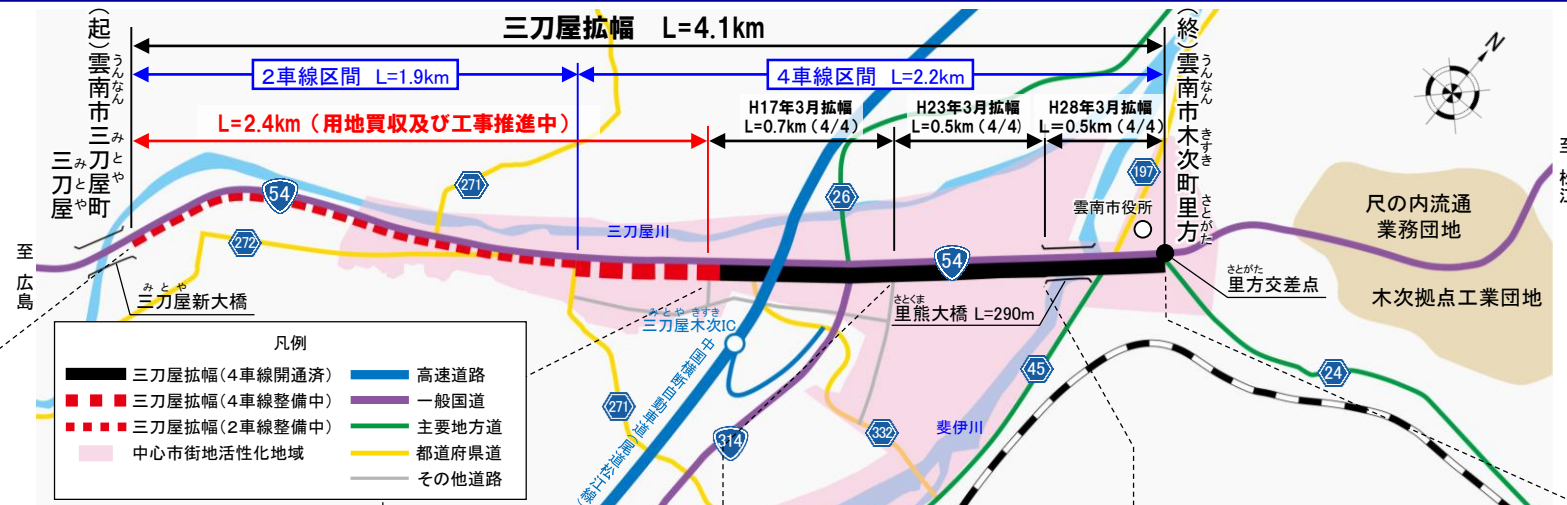
## (3) 事業の経緯および進捗状況

- 平成5年度に事業着手し、平成28年3月までに三刀屋木次IC周辺から里方交差点までの延長約1.7kmを4車線化。
- 現在は、三刀屋木次IC周辺から雲南市三刀屋町三刀屋までの延長2.4kmの工事を推進している。

### 事業の進捗状況 (令和2年度末)

用地	62%
工事	87%
全体	79%

※完成事業費に対する割合



### 事業の経緯

年度	区間	区間① 雲南市三刀屋町三刀屋～(市)要害1号線		区間② (市)要害1号線～(都)下熊谷1号線		区間③(都)下熊谷1号線～雲南市木次町里方	
						区間③-1	区間③-2
平成5年2月		都市計画決定					
平成5年度		事業着手					
平成10年度				用地買収着手			
平成11年度				工事着手			
平成16年度				平成17年3月(L=0.7km)拡幅			
平成17年度						工事着手	
平成19年度						用地買収着手	
平成21年度		中国地方整備局 事業評価監視委員会					
平成22年度		中国地方整備局 事業評価監視委員会(一部区間を2車線整備など道路構造の見直し)					
平成23年度				平成23年3月(L=0.5km)拡幅		里熊大橋側道橋完成	
平成24年度		中国地方整備局 事業評価監視委員会					
平成26年4月		都市計画変更(一部、完成2車線)※H24再評価で承認済					
平成27年度				中国地方整備局 事業評価監視委員会		平成28年3月(L=0.5km)拡幅	
平成30年度		用地買収着手					
令和2年度		中国地方整備局 事業評価監視委員会					

# 3. 前回評価時からの主な周辺環境の変化

- 雲南市は、平成28年11月に「雲南市中心市街地活性化基本計画」、平成30年1月に「中心市街地R54沿線まちづくり基本計画」を策定し、国道54号沿線の下熊谷地区等を中心市街地活性化地域に位置付け、まちづくりを進めている。
- 令和元年7月には、雲南市中心市街地商業施設(地産地消レストラン等の複合施設)が開業。



【写真①】 令和元年7月に開業した雲南市中心市街地の商業施設

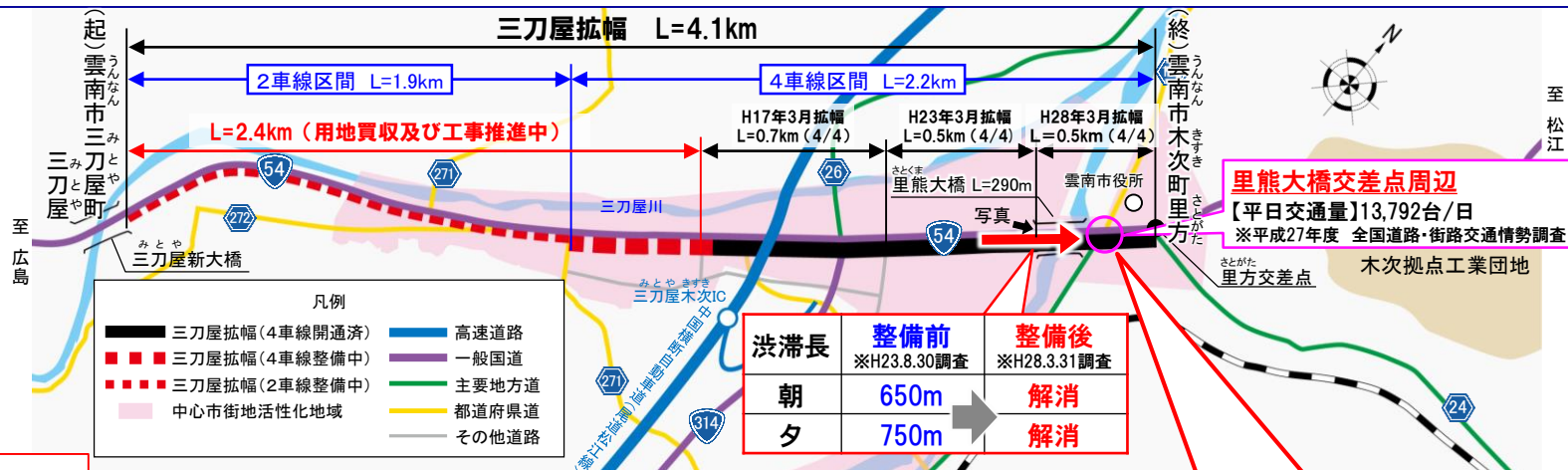


【写真②】 里熊大橋～里方交差点 延長0.5km 平成28年3月開通(4車線)



# 3. 前回評価時からの主な周辺環境の変化

- 平成28年3月に里熊大橋南詰から里方交差点まで(約0.5km)を4車線化し、里熊大橋交差点に右折レーンを新設。
- 里熊大橋交差点から松江方面に向かって朝ピーク時に最大650m、夕ピーク時に最大750mの渋滞が発生していたが、解消され円滑な交通が確保された。



## 里熊大橋交差点

### 渋滞解消状況

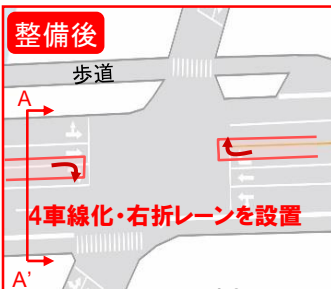
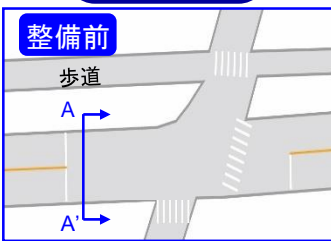
**整備前**  
2車線しかない橋梁上で渋滞が発生



**整備後**  
4車線化及び右折レーンの設置により渋滞が解消

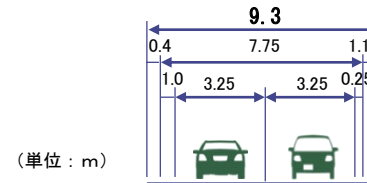


### 形状の変更

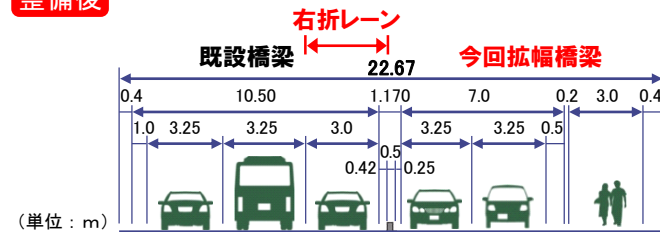


### 断面図(A-A'断面)

整備前



整備後



## (1) 現状の課題

課題①: 円滑なモビリティの確保



整備効果①: 交通混雑の緩和

課題②: 安全・安心の確保



整備効果②: 死傷事故の減少

課題③: 安全・安心な歩行空間の確保



整備効果③: 歩行者等の安全性向上

## (2) 道路整備により期待される効果

①: 中心市街地活性化の支援



整備効果①: 新規出店数や人口の増加

②: 救急搬送を支援



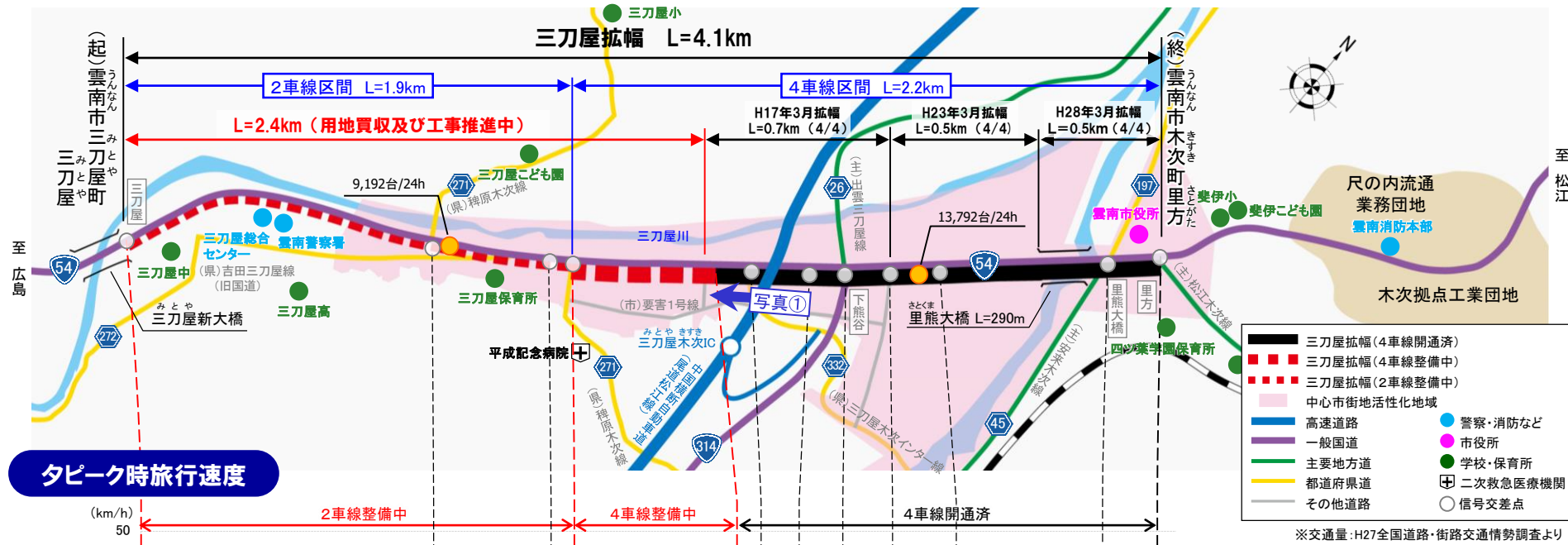
整備効果②: 円滑な搬送が可能となり、住民の  
安心な暮らしを支援

# 4. 事業の必要性

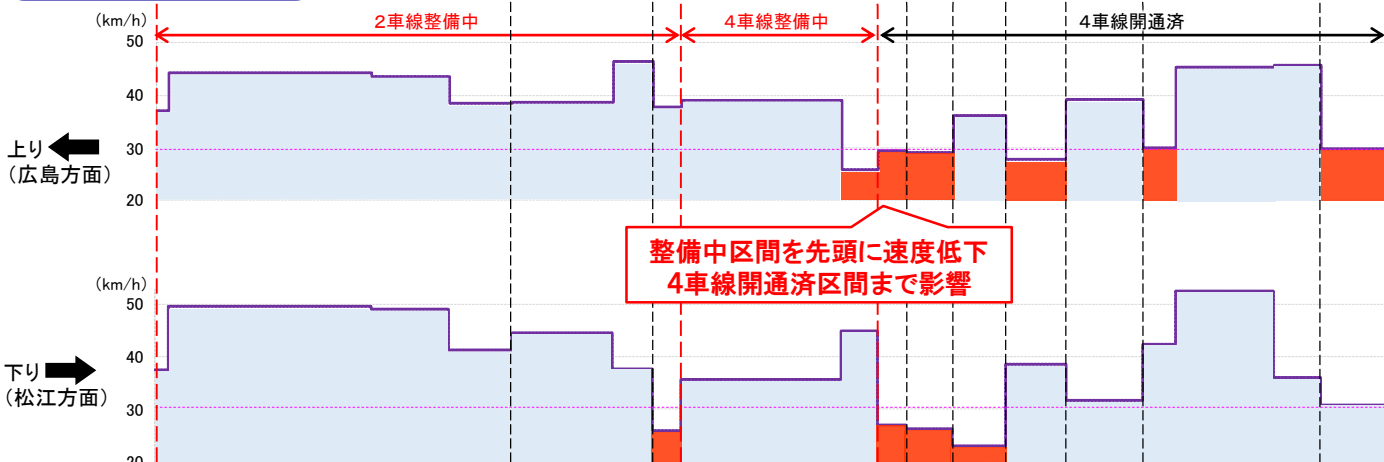
## (1) 現状の課題

### 課題①円滑なモビリティの確保(交通混雑の緩和)

- 上り方向(広島方面)においては、4車線整備中区間を先頭に速度低下が発生し、4車線開通済区間に影響を及ぼしている。
- 今後の整備により、円滑な交通が確保され、交通混雑の緩和が期待される。



### タピーク時旅行速度



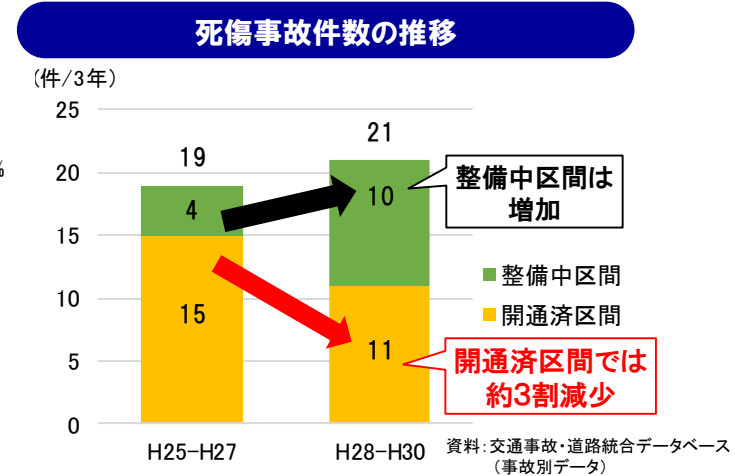
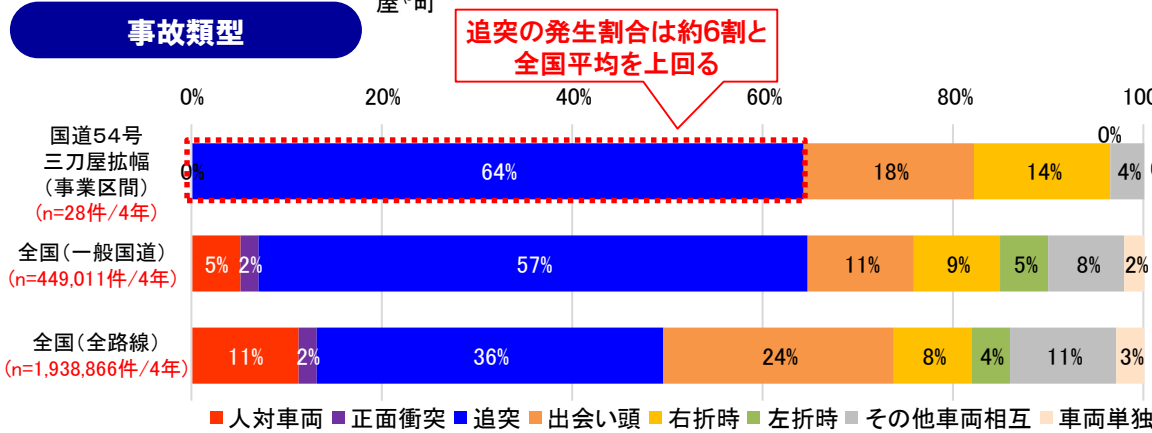
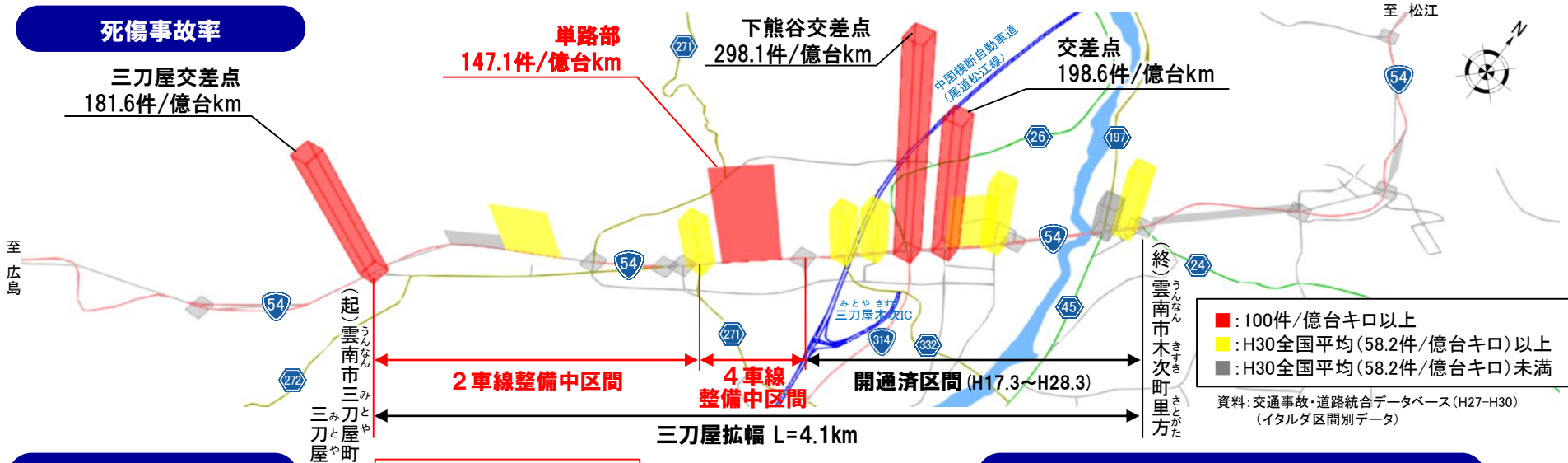
上り線の速度低下状況(タピーク時)

# 4. 事業の必要性

## (1) 現状の課題

### 課題②安全・安心の確保(死傷事故の減少)

- 事業区間の死傷事故率は全国平均を上回る箇所が多く、事故類型は交通渋滞に起因する追突事故が約6割を占め、全国平均より高い。また現在4車線整備中区間では、単路部での事故が頻発している。
- 段階的な拡幅により、開通済区間で約3割減少していることから、今後整備を行う区間でも事故の減少が期待される。

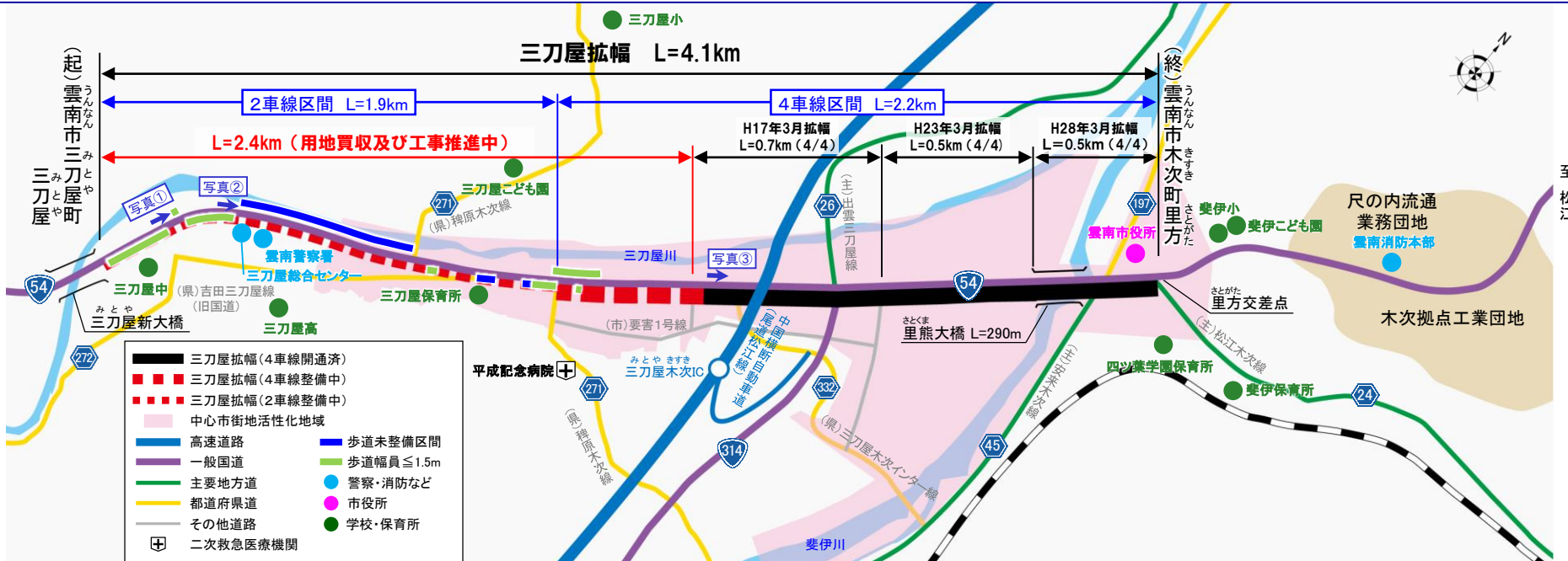


# 4. 事業の必要性

## (1) 現状の課題

### 課題③安全・安心な歩行空間の確保(歩行者等の安全性向上)

- 事業区間の沿線には学校や保育所、雲南市役所、病院等の施設が多く立地しており、4車線整備が完了した区間では、歩道幅員が拡がったことで歩行者等の安全性が向上している。
- 今後整備を行う区間には、歩道が設置されていない区間や、歩道幅員が狭く歩行者同士のすれ違いが困難な区間があり、歩行者等の安全確保が課題となっている。

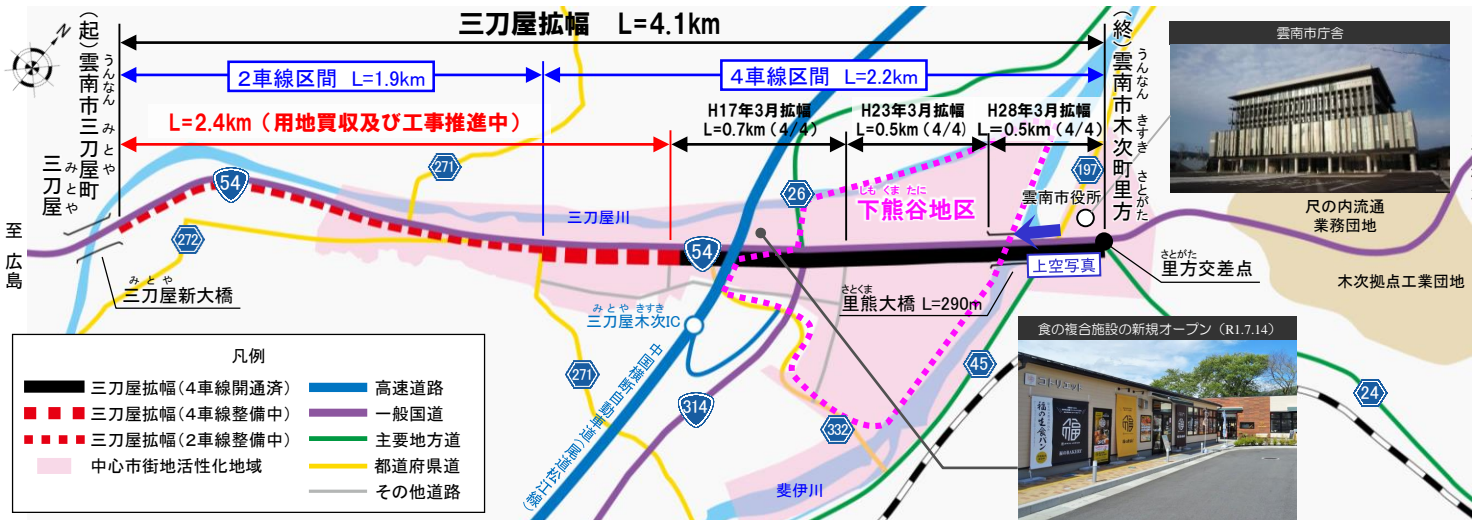


# 4. 事業の必要性

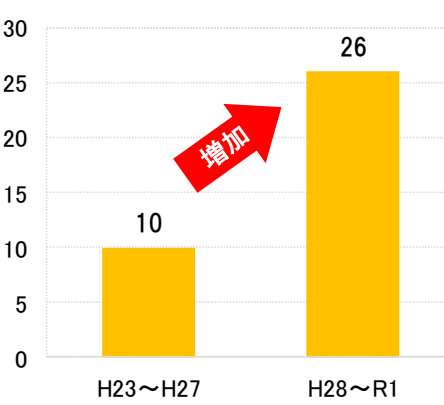
## (2) 道路整備により期待される効果

### ① 中心市街地活性化の支援 (新規出店数や人口の増加)

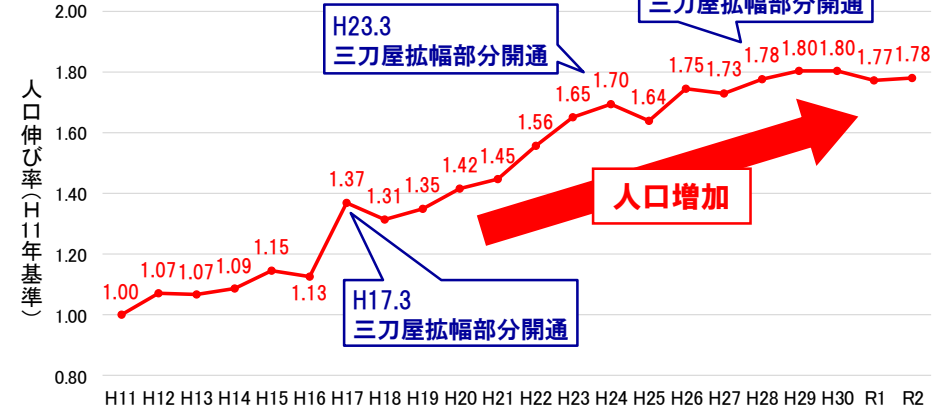
- 下熊谷地区では、4車線整備の完了に伴い市街化が進み、新規出店数や人口が増加している。
- 本事業は雲南市の「中心市街地R54沿線まちづくり基本計画」に整備促進すべき事業として位置付けられており、今後整備を行う区間が完成することにより、開発機運の高まりや、中心市街地の更なる活性化が期待される。



### 中心市街地の新規出店数



### 下熊谷地区の人口伸び率



### 地元住民の期待の声

三刀屋拡幅事業の区間は、この地域の中心市街地として賑わってきており、この地域の「まちづくり」には、三刀屋拡幅事業は必要だと思っています。

資料: R2 ヒアリング調査より (40代男性)

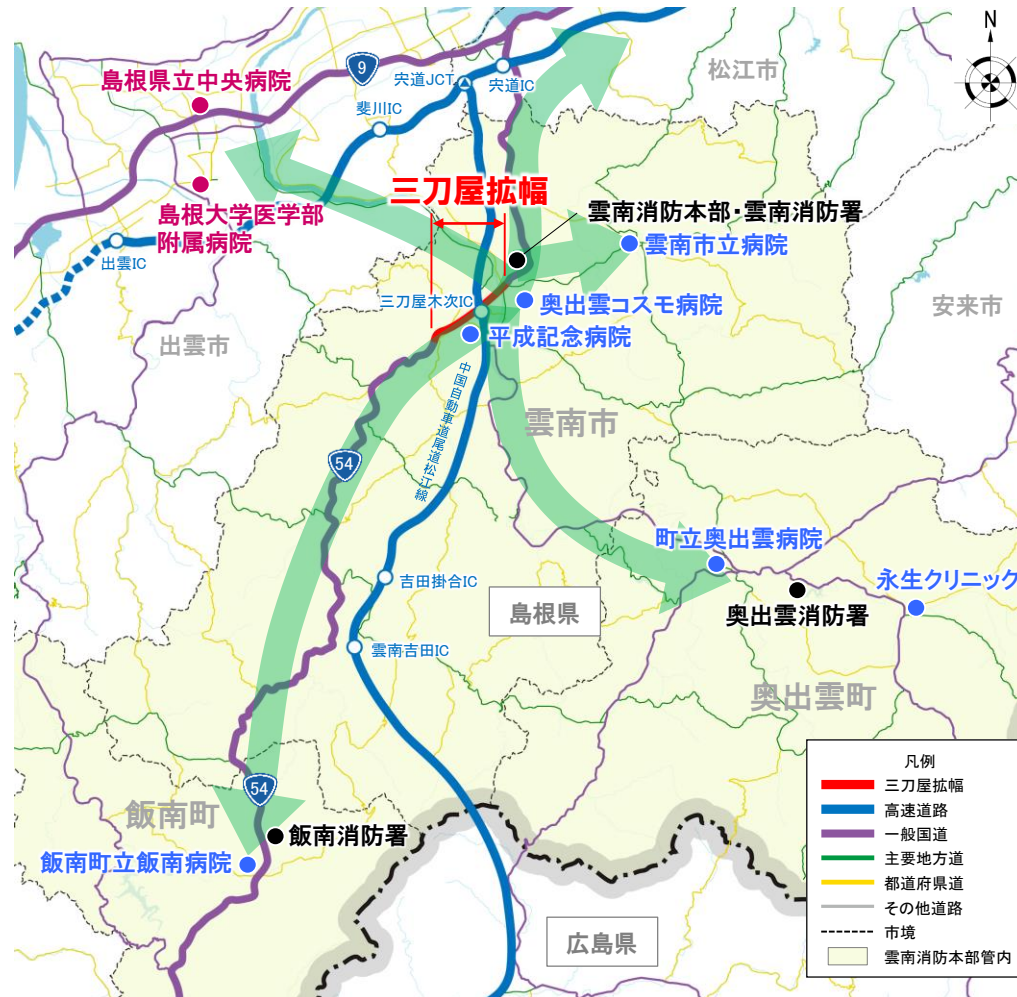


# 4. 事業の必要性

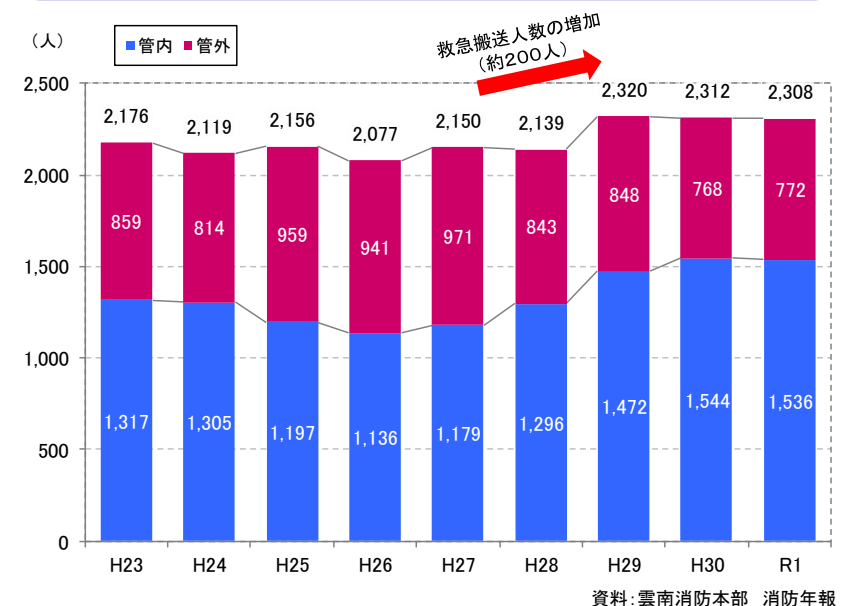
## (2) 道路整備により期待される効果

### ②救急搬送を支援(円滑な搬送が可能となり、住民の安心な暮らしを支援)

- 雲南消防本部の救急活動では、国道54号等を利用し、平成記念病院、雲南市立病院等の二次救急医療機関や出雲市及び松江市の三次救急医療機関等へ搬送を行っている。
- 平成28年3月の拡幅後、平成29年より雲南消防本部の救急搬送人数が増加している。
- 三刀屋拡幅事業を推進することにより、救急車両の進路確保や、より円滑な救急搬送が期待される。



### 雲南消防本部の救急搬送実績



### 雲南消防本部の声

雲南消防本部管内の病院や、出雲市及び松江市管内の病院への搬送に国道54号を利用しています。三刀屋拡幅の部分開通により、車道が広がったため、一般車が端に寄りやすくなり、救急車両が早く通れるようになりました。

残りの区間も車道が拡幅されることで、より円滑な救急活動が行えるようになると期待しています。

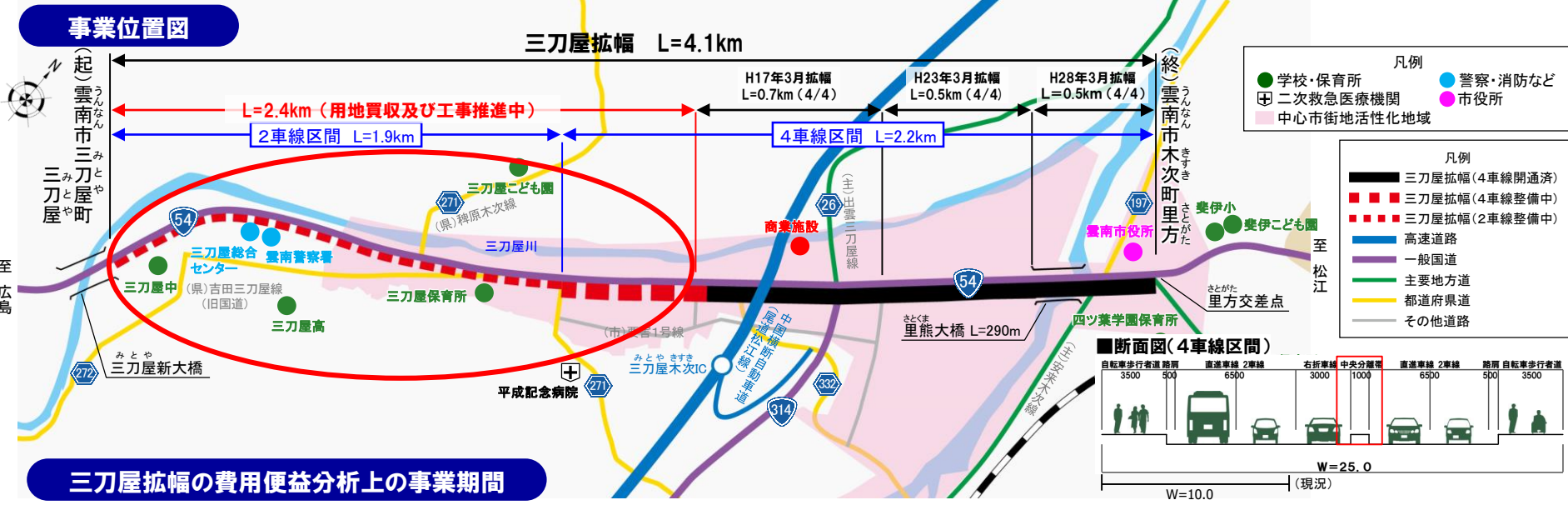
資料: R2 ヒアリング調査より

# 5. 事業期間延期の要因

沿線関係者等との協議や占用物件移設調整に伴う延期

**約48ヶ月の事業期間増**

- 4車線区間に中央分離帯を設置することで沿道施設への出入りが制限され、各施設の利便性が低下するため、工事着手前に雲南市等の関係機関と協力して、中央分離帯を設けることに関して沿線関係者等に丁寧に対応した。
- 沿線関係者との協議や水道、電線類等の占用物件の移設に伴う調整にも時間を要しているため、工事着手の時期を見直したことから、事業期間の延期が必要となった。



## 三刀屋拡幅の費用便益分析上の事業期間

	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025
	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	R6	R7
計画	設計・協議			約4年延長							
施工				当初: R3年度				約4年延長			
				工事				変更: R7年度			

費用便益分析上の  
事業期間

● 地域からの要望等を踏まえ、道路の役割については、従来の3便益に加えて、「地域から期待される道路の役割」等を整理。

### ◆ 3便益による費用便益比

(億円)

項目	全体事業	残事業
<b>総費用 (C)</b>	<b>223</b>	<b>35</b>
<b>事業費</b>	<b>205</b>	<b>25</b>
<b>維持管理費</b>	<b>18</b>	<b>9.8</b>
<b>便益額 (B)</b>	<b>226</b>	<b>90</b>
<b>走行時間短縮便益</b>	<b>218</b>	<b>87</b>
<b>走行経費減少便益</b>	<b>6.4</b>	<b>2.1</b>
<b>交通事故減少便益</b>	<b>1.5</b>	<b>0.22</b>
<b>費用便益比</b>	<b>1.01</b>	<b>2.5</b>

便益計測対象項目	内 容
走行時間短縮便益	周辺道路も含め、道路整備によって走行時間が短縮される効果を貨幣価値として算出したもの。
走行経費減少便益	周辺道路も含め、道路整備によって走行条件が改善されることによる走行に必要な経緯(燃料費、オイル費、タイヤ・チューブ費、車両費、車両償却費)の減少効果を対象として算出したもの。 なお、走行時間に含まれない経費を対象として算出している。
交通事故減少便益	周辺道路も含め、道路整備による交通量等の変化に伴う、交通事故による社会的損失(運転者、同乗者、歩行者に関する人的損害額、交通事故により損壊を受ける車両や構造物に関する物的損害額等)が減少する効果を貨幣価値として算出したもの。

### ◆ まとめ

計画交通量	総事業費	総費用 (C)	3 便益 (B)	費用対効果 (B/C) ( ) 内は残事業B/C
5,800~18,800 台/日	約144億円	223億円	226億円	1.01 (2.5)

※ 基準年：R2年

### ◆ 道路の役割

#### ■ 道路の役割

- 雲南市の魅力あるまちづくり(中心市街地形成や商業集積など)を支援  
[宅地化等による人口増加(対H11:約1.8倍)、中心市街地の新規出店数の増加:2.6倍(H23~H27:10→H28~R1:26)]
- 環境への影響を考慮した効果[約1.7千トンのCO2削減]  
三刀屋拡幅整備に伴う速度向上による地球環境(CO2)の改善効果を算定
- 沿道環境の改善[NOX排出量:約5.1トン/年(約2.8%)削減、SPM排出量:約0.3トン/年(約3.2%)削減]

## ◆前回評価時との比較

	前回再評価 (平成27年度)	今回再評価 (令和2年度)	備 考 (前回評価時からの変更点)
事業諸元	L=4.1km	L=4.1km	
計画交通量	5,900/日 ~19,000/日	5,800/日 ~18,800/日	<ul style="list-style-type: none"> <li>・将来交通需要推計ベースの変更(H17年度全国道路・街路交通情勢調査ベース → H22年度全国道路・街路交通情勢調査ベース)</li> <li>・最新の事業化ネットワークを反映</li> </ul>
総事業費	約144億円	約144億円	
総費用 (C)	180億円	223億円	<ul style="list-style-type: none"> <li>・基準年の変更(H27基準からR2基準)</li> <li>・供用年の変更</li> </ul>
総便益 (B)	193億円	226億円	<ul style="list-style-type: none"> <li>・将来交通需要推計ベースの変更(H17年度全国道路・街路交通情勢調査ベース → H22年度全国道路・街路交通情勢調査ベース)</li> <li>・「費用便益分析マニュアル」改定(H30.2)による変更</li> <li>・基準年の変更(H27基準からR2基準)</li> <li>・供用年の変更</li> </ul>
費用対効果 (B/C)	1.1	1.01	総費用及び総便益を見直したため

※費用/便益は基準年における現在価値の値

一般国道54号 三刀屋拡幅

〔島根県への意見照会と回答〕

国中整企画第52号  
国中整港計第24号  
令和2年10月29日

島根県知事 様

国土交通省  
中国地方整備局長  
( 公印省略 )

中国地方整備局事業評価監視委員会に諮る対応方針  
(原案)の作成に係る意見照会について (依頼)

貴職におかれましては、日頃から国土交通行政に対するご理解、ご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、当地方整備局管内における直轄事業については、国土交通省所管公共事業の再評価実施要領（以下「実施要領」という。）に基づき、事業採択後一定期間が経過している事業等について、その効率性、実施過程の透明性を確保するため、中国地方整備局事業評価監視委員会（以下「委員会」という。）において、再評価に係る対応方針(原案)について審議しております。

このたび、令和2年11月30日に委員会を開催することとなりましたので、実施要領に基づき、委員会に諮る対応方針(原案)の作成にあたり、別紙について貴職のご意見を承りたく依頼いたします。

(別紙)

事業名	「対応方針（原案）」案※	備考
江の川直轄河川改修事業	継続	
一般国道54号 三刀屋拡幅	継続	
浜田港福井地区防波堤（新北）整備事業	継続	

※貴県の意見を踏まえ、「中国地方整備局事業評価監視委員会」へ諮る対応方針（原案）を作成します。

■ご意見の送付期限 : 令和2年11月25日（水）までをお願いします。

※様式自由

■送付先・お問い合わせ先

中国地方整備局 企画部企画課

建設専門官 桐谷 （内線：3153）

主査 武嶋 （内線：3186）

TEL：082-221-9231（代表）

FAX：082-511-6359

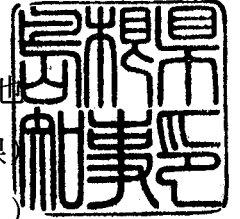
〒730-8530 広島市中区上八丁堀6-30 広島合同庁舎2号館

高推第36号  
令和2年11月19日

国土交通省

中国地方整備局長 小平 卓 様

島根県知事 丸山 達也  
(土木部高速道路推進課)  
(土木部河川課)  
(土木部港湾空港課)



中国地方整備局事業評価監視委員会に諮る対応方針（原案）の作成  
に係る意見照会について（回答）

令和2年10月29日付け国中整企画第52号、国中整港計第24号で意見照会の  
あった下記事業について、継続するとの対応方針（原案）については、別紙のとおり  
異存ありません。

記

- ・ 江の川直轄河川改修事業
- ・ 一般国道54号 三刀屋拡幅
- ・ 浜田港福井地区防波堤（新北）整備事業



以上



## 中国地方整備局事業評価監視委員会に諮る対応方針(原案)案に対する意見

## 【河川事業】

事業名	江の川直轄河川改修事業
対応方針に対する意見 (対応方針：継続)	妥当である
<p>(意見)</p> <p>江の川は、既往最大の昭和47年7月豪雨や昭和58年7月豪雨、近年においては平成30年7月豪雨、そのわずか2年後の令和2年7月豪雨などにより、幾多の甚大な被害が発生しています。</p> <p>特に下流域（島根県側）は、無堤防区間が数多く残っており、堤防整備率は、上流川（広島県側）に比べて非常に低い状況にあります。</p> <p>常に水害の危険にさらされている地域住民の安全安心を一日でも早く確保するため、継続事業箇所を早期完成を図って頂きたい。</p> <p>また、未着手箇所についても、上下流域の整備状況並びに流域住民の意見を十分考慮の上、江の川水系河川整備計画に基づき、国の責務において整備を早急に進めて頂きたい。</p>	

(別紙)

中国地方整備局事業評価監視委員会に諮る対応方針（原案）案に対する意見

【道路事業】

事業名	一般国道54号 三刀屋拡幅
対応方針に対する意見 (対応方針:継続)	妥当である
(意見) 三刀屋拡幅は、円滑な交通と交通安全の確保、地域経済の発展などに寄与する事業である。県や市の関連する事業なども実施してきたところであり、雲南市三刀屋町三刀屋から市道要害1号線までの区間の円滑な交通と交通安全の確保を図るため整備を促進していただきたい。	

## 中国地方整備局事業評価監視委員会に諮る対応方針（原案）案に対する意見

## 【港湾事業】

事業名	浜田港福井地区防波堤（新北）整備事業
対応方針に対する意見 （対応方針：継続）	妥当である
<p>（意見）</p> <p>浜田港は県内唯一の国際貿易港であり、県西部石見地域の産業振興を支える重要な産業インフラである。</p> <p>平成30年3月に直轄事業で整備された「臨港道路福井4号線」が供用開始し、高速道路に直結するなど、港湾・物流の機能強化は着実に進んでいる。</p> <p>一方で港内の静穏度確保は課題として残っている状況であることから、波浪の進入を防ぎ、港内の静穏度を向上させ、年間を通じた安全な荷役作業を可能とするための「防波堤（新北）」の事業を促進させ、早期完成を図って頂きたい。</p>	